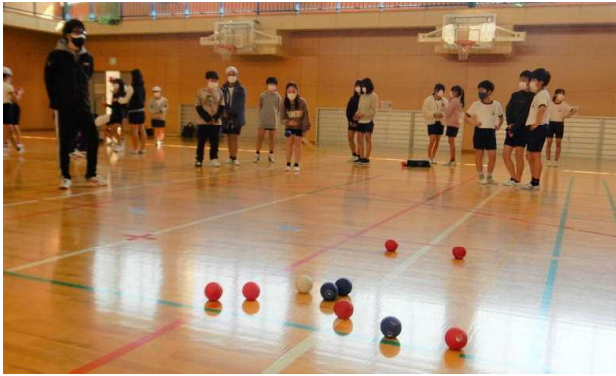


気づき、考え、実行する さし人つうしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.29
令和4年3月24日
文責：校長 松野克己

6年生ボッチャ体験



「ボッチャ」という競技をご存じでしょうか。東京2020パラリンピックで杉村選手が金メダルをとった種目です。テレビで見ましたが、その高度な技術に驚きました。

脳性麻痺や四肢重度機能障がいの方が楽しめるように考案されたスポーツで、簡単にルールを説明すると、ジャックボールという白いボールに赤青それぞれのボールを投げたり転がしたり、相手のボールに当てたりして、近い方が得点できるものです。この冬の北京オリンピックで盛り上がったカーリングと得点の数え方は同じです。

3月10日(木)に佐賀県障がい者スポーツ協会の今井さんはじめ3名の方に来ていただき、6年生がこのボッチャを体験し

ました。最初に視覚障がいの方がターンをするときに、背中を長い棒で叩いてターンポイントを伝えるような障がい者が健常者同様にスポーツをするための工夫を教えてください、その後には体育館でボッチャを楽しみました。なかなかうまくジャックボールに寄せられなかった子供たちも少しずつ感覚が分かってきて、ゲームらしくなってきました。寄せるよりも相手のボールを弾き飛ばすことに集中していた子もいましたね。

こういう体験で障がいをもった人への理解が高まると思いましたが、実際に日頃からボッチャを楽しんでいる障がいをもった方と対戦すると、もっと壁を取り払うことにつながるのではないかと思います。

第129回佐志小学校卒業式

3月17日(木)、春の訪れを感じさせる暖かさに恵まれる中、本校の第129回卒業式を行いました。今年度も来賓の参加はお断りしましたが、昨年は見送った在校生の出席を、5年生のみではあるものの今年度はできる状況でした。ちなみに「129回」は何を基準にしているかという、佐志小学校と黒崎小学校が合併した「黒崎尋常高等小学校」ができて129年を迎えるということのようです。現在の「佐志小学校」という名称になるのは昭和22年ですから、このへんを「第〇回」の基準にしている学校も多いようです。



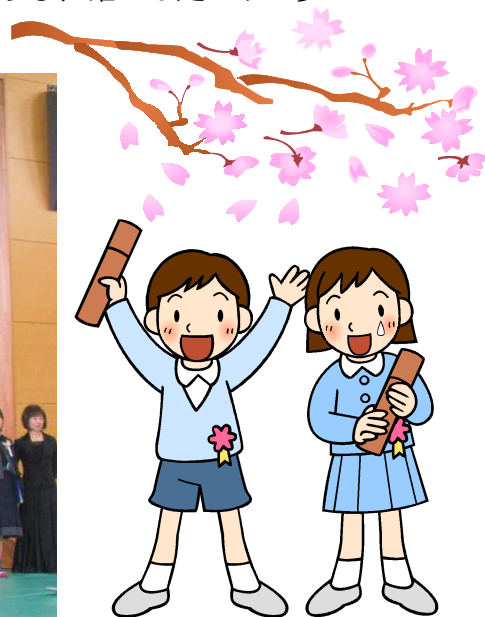
卒業式は儀式的行事にふさわしい緊張感のある雰囲気でした。特に卒業証書授与は満点の出来映えでした。堂々と胸をはって歩き、しっかり顔を上げて目を見て礼をし、きちんと腕を伸ばして授与される姿に、渡す私も身の引き締まるような緊張感を感じました。卒業生が歌った「カイト」の歌も心に響きました。保護者代表の挨拶をいただいた福島さんの言葉も心にしみました。1時間ちょっとの卒業式でしたが、目指していた「厳粛な中にも温かみのある卒業式」が立派にできたと思います。

卒業式の中で伝えた式辞の一部をご紹介します。

この新しい環境への適応で校長先生が伝えたいことは次の二つです。

一つは「日々やるべきことをきちんとやる」ということ。みなさんはこの佐志小でたくさんのお話を学んできました。中学校ではそれがリセットされるわけではなく、そのまま継続していく中で、少しずつレベルアップしていただくだけです。例えば、「あいさつをきちんとする」「話は黙って聞く」「人と仲良くする」といったことをそのまま続けてください。まずはそれで大丈夫です。

もう一つあります。「未来の自分を思い描き、今の自分を大切にすること」です。みなさんには大きな可能性があります。その可能性を伸ばしていくために、どんな自分になりたいかをイメージして欲しいのです。将来の職業だけの話ではありません。例えば「周りから信頼される人になりたい」という未来の自分を思い描き、「そのために、嘘をつかない・約束を守る・友達を思いやる」といった志を立て、それを日々の生活で実行していくのです。一方で、これからはみなさんを惑わす様々な誘惑も強くなります。例としてはSNSによる仲間外しや深夜のオンラインゲームや徘徊などでしょうか。これらは、そのほとんどが人からの誘いをきっかけとしたものです。ですから、その誘いをきっぱりと断る勇気が必要ですし、今お話しした、未来の自分の姿をしっかりとイメージすることが、その勇気を後押ししてくれます。どうか、自分を大切にしながらの長い道のりを、迷いながらも、確かな足どりで歩いていってください。



来年度もよろしくお祈いします

まもなく令和3年度が終わります。今年度もコロナ対策に苦慮した1年となってしまいました。行事等の中止や縮小が最も残念でした。また、運動会以外1度も全校児童児童が集まることはできませんでしたし、マスク着用で児童の名前がなかなか覚えられないこともストレスでした。PTA活動もかなり制限しなくてはならず、保護者の皆さんと顔を合わせる機会が少なかったことも残念です。

今、学校はコロナ対応のみならず、一人一台端末の活用や英語、プログラミングといった新しい課題への対応が求められる日々です。だからといって、プリントなどの採点評価や授業の準備、出席簿等の事務処理がなくなるわけではありませんから、やらなくてはならないことが増える一方です。教員の本務は授業であり児童への対応です。ですから、これらの仕事は児童が帰った後にギアを入れ直してやっています。当然、勤務時間では終われずに、遅くまで残って仕事をする教員もいます。そんな私たちに元気を与え、奮い立たせてくれるのが子どもの笑顔であり、頑張る子どもの姿です。そして、私たちを支えてくれるのが保護者の皆さんの後押しです。この後押しによってどれだけ勇気づけられることでしょうか・・・それはきっと、保護者の皆さんの想像を超える力だと思います。今年度のご支援ありがとうございました。来年度も、保護者の皆さんと足並みを揃え、一人一人の児童と向き合っていきたいと思ひます。どうか引き続きのご支援をよろしくお祈いします。

